

第1章 やまぐちの豊かな流域づくりの基本理念

1 豊かな流域づくりの基本理念

もり・かわ・うみを育むふるさとの流域づくり

～ふるさとの川でつながる『循環共生型社会』をめざします～

流域とは、雨や雪などの降水が、地表や地下を通り、川の水となって集まり、海まで流れ出るまでの範囲（集水域）を言います。

流域では、水によってさまざまな『つながり』が形づくられています。流域は、水を通して一体的な生態系や生活圏を形成するとともに、その水に育まれた農林水産物の循環等を通して社会の基本単位を構成してきました。

近年、様々なところで、住民に親しまれる川づくりや、流域を考える新しいタイプの地域づくりの活動が活発になってきました。しかし、その多くは川そのものに焦点を当てたものであり、また組織やグループの枠を超えた、地域全体としての活動、『流域』全体を視野に入れた活動にまでは至っていないのが実情です。

21世紀は「水の世紀」と言われます。世界各地で水問題が様々な紛争を産むともいわれています。水による紛争から、水を通じたコラボレーション（協働）への転換が世界的にも求められています。また、21世紀の人類共通の課題は「持続可能な循環共生型社会の構築」にあると言われてしています。その第一歩として、まず、身近なところで私たちの生活を見直してみることが必要であると思われまます。

このように考えると、水や川でつながった流域を基本単位として、われわれの生活と環境の関係を再確認してみることは重要な意味を持っています。したがって今、自然環境や生態系、人々の暮らし、歴史・文化・産業を包含した新たな視点での地域づくり、すなわち、持続可能な「流域づくり」を目指し、実現することは大変意味のあることと言えるのです。

ふるさとの川の流域で実現したモデルを他地域や広く世界に拡大して行くことができれば、持続可能な社会の実現にも大きく寄与することができるでしょう。また、流域づくりの成果は、人々をひきつける魅力ある川の姿と、私たちの健全な暮らしぶりに、結果的に現れてくるということにもなるはずです。

そこで、「やまぐちの豊かな流域づくり」においては、上流域から下流域までの流域に関わる全ての主体が協働・連携して、森・川・海を育み、また、森・川・海に生まれながら、『ふるさとの川でつながる循環共生型社会を目指す』こととします。

2 豊かな流域づくりの視点

流域づくりは、環境創造とともに、人々の暮らしや地域産業などを含む総合的な視点での取組みが重要です。

そのため、「やまぐちの豊かな流域づくり」においては、河川流域全体が健全に保持されることを基本に次の4つの視点で取り組みます。

(1) 「地域づくり」の視点

豊かな流域づくりにおいては、「健全な水循環の確保」の視点が大切です。流域全体における森林、農地の保水能力の向上、河川流量の維持、自然浄化能力の維持・回復、源流域・湧水の保全、森林・農地・緑地の保全などの土地利用対策など、健全な水の循環を確保することが重要です。

また、水の循環だけではなく、農林水産物を中心とした地産・地消による物の循環や資源の有効利用に加え、身近な自然とのふれあい、自然の中での憩いといった自然との共生を考えた地域づくりも重要です。

(2) 「くらしづくり」の視点

川は資源としての水や食料としての魚介類など、そこに住む人々の生活に欠かせない様々な物資を提供するとともに、人の心にもうおいやすらぎ、憩いといった恵みも与えてくれます。

近年では川とのふれあいが希薄になり、その豊かな水の恵みを忘れがちになっていますが、古来、人間は、その物質的・精神的両面から川の恩恵にあずかり、その歴史や文化を育んできました。

そこに住む人々の愛着や誇りを感じられる川の営み、川とのふれあいが大切であり、また、森・川・海という流域全体の生活に自然の恵みを活かしたやすらぎの創造が重要です。

(3) 「産業づくり」の視点

近年、高齢化や過疎化の進行とそれに伴う担い手の不足などから、自然の恵みを受け、時として自然環境を守り育み、社会・文化・教育等の多面的な機能を果たすとともに、健全な水循環を支えてきた農林水産業の衰退が著しく、地域環境の保全や地域産業振興の面からも大きな打撃を与えています。

このため、そこに住む人々が活発に活動し、元気で健全な生活を送るには、地域の個性や多種多様な資源をうまく利用した産業の創造と存在が欠かせません。当然、そのような産業を構成する1つが、持続可能な環境に優しい、地域に根をおろした農林水産業であり、その振興が重要です。

(4) 「人づくり」の視点

流域では様々な人々が川の恩恵を受けて生活を営んでいるにもかかわらず、恩恵の受益者すべてが必ずしも川を意識した生活を送っていません。川を育むには、川と人との関係を再認識するだけでなく、流域とともに暮らす人と人とのつながりが鍵となります。

地域づくりの主体となる人やさまざまなグループ・団体、彼等が交流できる場となるコミュニティを創造し育てる「人」が大切です。